

◆りんご「ふじ」収穫のポイント

「ふじ」は、着色や地色の抜けなどの外観に加えて、密入りや食味を確認して収穫しましょう。ただし、着色を待ってもぎ遅れる事のないように、**地色・食味を重視して**こまめに収穫しましょう。

また、りんごの収穫では、脚立や高所作業台車を使った作業が多くなるため、十分に注意して事故の無いように努めましょう。

◆りんご 黒星病・腐らん病対策

翌年の越冬菌密度を減らすため、収穫後（休眠期）に必ず薬剤散布をしましょう。

「黒星病」の被害落葉は翌春の伝染源となるため、収穫終了後から翌春の展葉期までに、すき込んだり、または集めて園地外に搬出したりするなど適切に処分しましょう。

「腐らん病」は、冬期間にも感染するので、発病枝を確認したら切り落とし、切り口に癒合剤を塗布しましょう。また、切り落とした枝は、園地に放置せず適切に処分しましょう。

【りんご休眠期防除】

防除時期	対象病害虫	薬剤名	倍数	収穫前使用日数 使用回数
休眠期		① アビオン－E（展着剤）	2, 0 0 0 倍	—
	腐らん病	② トップジンM水和剤	1, 0 0 0 倍	前日まで 6回以内
	黒星病	③ ベルクート水和剤	2, 0 0 0 倍	前日まで 6回以内 (但し、開花期以降 散布は3回以内)
黒星病対策		「黒星病」の発生が多い園地では、耕種的防除として 「DL消石灰」（1 0 0 k g 程度／1 0 a）を散布する。		

◆野ネズミから果樹を守りましょう！

1. 野ネズミが住みにくい環境作り

野ネズミが侵入、定着しないように、園地や樹周囲の除草・清掃を行い、作物残さなどエサになるものを処分しましょう。また、隠れ場所になるような資材は撤去しましょう。

2. 苗木・幼木の保護

苗木や幼木は、積雪が予想される高さまで、幹を金網や合成樹脂のプロテクターなどを巻きつけて、食害されないように保護しましょう。

3. 野ネズミの密度を下げよう

被害を抑えるには、個体数を減らすことが重要です。

●巣穴に殺ソ剤を投入し駆除する方法

殺ソ剤による駆除を行う場合は、ネズミが現在出入りしている巣穴「**生き穴**」に投入しましょう。

薬剤	使用時期	使用量	使用方法
Z・P 1.00	根雪前 または 融雪直後	50～200g/10a	本剤を 3～5g 紙包みまたはそのまま で野ソ穴に投入するか、10a 当たり 10～40 箇所に適宜配置する。

「生き穴」の特徴

穴がきれい、入口の周りに草が生えていない

前日に野ソ穴を踏み固めて、翌日に穴が開いているのが「生き穴」です！

●忌避法

忌避剤を樹冠下に散布して、野ネズミの密度を下げる方法。

樹冠下の落葉や敷きワラなどを取り除いて散布し、散布後に表土と混和します。

作物名	薬剤名	使用時期	使用量	使用回数	使用方法
おうとう りんご	フジワン粒剤	根雪前	200 g / 樹	2 回以内	本剤の所定量を樹冠下 半径約 50 cm の範囲の 土壌と均一に混和する。

野ネズミは、タバコ・化粧品・香水など人工的な匂いを強く警戒します！殺ソ剤や捕獲資材を取り扱う際は必ずビニール手袋や軍手を着用し、なるべく匂いがつかないように注意しましょう。

◆降雪前の雪害対策

果樹の立ち木栽培では、雪による枝折れを防ぐため、主枝や垂主枝などの大枝に支柱を設置しましょう。支柱を斜めに立てると、雪が解けたときに外れてしまう恐れがあるので、できるだけまっすぐ立て、枝が外れないように結束しましょう。

さくらんぼの雨除け施設では、雨樋に積もった雪が被害の原因になるため、雨樋の谷部の下に補助支柱を追加して補強しましょう。マイカ線や防鳥ネットは外すか、できるだけコンパクトにまとめて着雪を少なくしましょう。